

Youth Manna

マルコ1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/11/14(月)

エゼキエル44章

イスラエルの民は、割礼を受けていない異国の民を連れてきて神殿のあらゆる仕事に従事させていた(7-8)。しかし、本来、異国の民は主の聖所に立ち入ることさえ禁じられていた(9)。

「このキリストを通して、私たち2つのものが1つの御霊によって御父に近づくことができるのです。こういうわけで、あなたがたは、最早他国人でも寄留者でもなく、聖徒達と同じ国の民であり、神の家族なのです(エペソ2:18-19)」

→私たちはイエス様を通して、分裂していたものが1つに接合されたり(エゼキエル37:15-19)、世界のどこかの、イエス様を信じるみんなと家族になるんだね!

★もし愛することが難しい人がいたら、イエス様によって心や想いが一致できるように祈ってみよう! また、神の家族に何かよいことをしよう!(ガラテヤ6:10)

2022/11/15(火)

エゼキエル45章

1-8: 神に奉納する土地について 祭司たちの割当地、レビ人の割当地、町の所有の三つ。

9-12: 君主に対して「公正と正義を行え」と命じ、不正な秤を用いないようにと言っている。ばれなければOK、自分が得すれば多少の不正はOKという考えが入り込まないように気を付けなければいけないね。

13:- これらのささげ物は、民が神様と交わりを持つために必要なものだったよ。イエス様は私たちの罪をきよめて救うために、十字架の上でご自身を犠牲にしてささげてくださった。イエス様が私たちのためにしてくださったことを深く覚えながら、イエス様の愛と恵みに応えて今日も歩もう!

2022/11/16(水)

エゼキエル46章

礼拝においては、君主と民衆でその作法が異なっていた。ここでの君主は祭司の役割を担うメシア的な存在であり、礼拝においてはささげ物を用意して献げる役割があった。民衆は門の入り口のところで礼拝していた。

ささげ物は神への想いを表す。君主が主に献げるのは「傷のない」子羊と雄羊であった。これらを傷つけずに育てるのは大変な苦勞であるが、君主はそれを主のため、民のために行った。このように日々の気配りや営みも神への礼拝である。

神に喜ばれる礼拝とはどのようなものか考えてみよう。

2022/11/17(木)

エゼキエル47章

エゼキエルが見た幻である。

3-8vに注目しよう! 神殿の敷居の下から流れ出る水はどんどん水量が増し、アラバに下り、海(死海)に入る。海に入るとその水は良くなる、とある。アラバとは、ヨルダン川が死海に入る地域にあり、この地域は、雨期を除いてほとんど水気がなく、乾燥している地域。死海とは、塩分濃度が濃く生き物が生息できない海である。乾いた土地を豊かにし、死の海さえもいのちの海に変えることが神様にはできるということなのだろ。

いのちの源である神様と共に歩めているだろうか? 神様を知っていても常に良い状態でいられるわけではない。それでも、いのちの水の溢れ出る神様に思いを向け続け、期待し、歩もう!

思いをセルなどで分かち合い、励まし合おう!

2022/11/18(金)

エゼキエル48章

今日はエゼキエル書最後の章だね。ここには新しいイスラエルの土地配分について記されているよ。

それらの土地は、どの部分も売ったり取り替えたり、譲り渡してはならないと命じられている(14)。それはなぜだろう? これらの土地が誰から与えられたものなのかを考えてみよう。

最後にエゼキエル書は「町」についての記述で閉じられる。この町の名が「主はそこにおられる」と呼ばれることが、どれほど素晴らしいことかについて考えてみよう(35)。同じ主が、今日も私たちと共にいてくださることは、君にとってどんな意味があるだろうか?

2022/11/19(土)

黙示録1:1-8

今日からヨハネの黙示録が始まったね! 書いたのはもちろんヨハネ、だけどここに書かれているのはヨハネが自分で作った物語ではなく、イエス様がヨハネに幻として見せたものがそのまま書かれているんだ。実際にヨハネが与えられた幻をイメージしながら読んでいこう!

この黙示録には、それぞれの教会に当てられた言葉があるけれど、そのずっと先、私たちのいる時代さえこえて、イエス様がもう一度来られる時のことまで書いてあるんだ。はじめであり、終わりである神様に心を向けて今日も歩もう!

イエス様が再びきてくださること期待をもって待ち望んでいこう!

2022/11/20(日)

黙示録1:9-20

ヨハネが幻のうちにイエス様と出会っていることに注目しよう。ヨハネが見た幻では、イエス様が七つの教会と七つの燭台の真ん中に立っている。七はユダヤ人の文化では完全数で、全体を表す。また「燭台」は「教会」と言い換えられているので、全世界の教会の中心にイエス様が立っておられることを意味する。

イエス様の御姿は七つの比喩で説明される。頭と髪からはイエス様の完全な純潔さを、目からは神様の厳しさを語る。つまりヨハネは、イエス様の素晴らしさと卓越性、またその支配を肌で感じている。そしてこの圧倒的な神様の栄光の前に、深い恐れを抱いている。しかし、神様は「恐れることはない」と語ってくださる。生ける神様の支配を実感するところに、ヨハネの確かな信仰の秘訣がある。

祈り: 神様、恐れをもってあなたのことばに心と耳を傾け、ご計画を知ることができるよう。